

山形県立荒砥高等学校同窓会
関 東 支 部



支 部 報

令和5年8月 発行：山形県立荒砥高等学校同窓会 関東支部
事務局：〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町1-7-C-605 長谷部誠方 TEL.04-2939-2606

スクールカラー・紫



「わが母校よ
永遠なれ」

荒砥高校同窓会 関東支部
支部長 別府忠雄
(昭和34年度卒)



今年も暑い日が続いていますが、関東支部の皆様にはお変わりない事と存じます。
さてこの度、私 別府忠雄は図らずも新支部長に就任いたしました。
と言いますのは、前支部長菅野孝雄氏の死去を始め、他の役員の高齢化や病気等の問題を抱え、役員維持が困難な状況が続いておりました。
しかし、母校や関東支部を思う、勇気ある後輩たちが新役員会に参加することとなり、その彼らに、強く背中を押されたという訳です。
そういう私も高齢ではありますが、新役員会と共に関東支部のために尽力したいと考えております。今後共、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。
さて本年荒砥高校は創立75周年を迎えました。
これまでの75年の歩みを振り返れば、荒砥高校が地域にとってどれほど重要であったか、また、子供たちにとっていかに大切な高校であったかを改めて知る思いです。
本年度の新入生は40名と伺いました。
母校の関係者の喜びが伝わって参ります。
私も本当に嬉しく思っております。
しかし、少子化の波は止まらず、一喜一憂している場合ではないことも現実です。
それでも荒砥高校が、時代の波にもまれながらも、新しい光をつかみ、新しい歴史を築いて行くことを信じております。
関東支部も応援して参ります。
「わが母校よ永遠なれ」

2023年8月

2023年
役 員 名 簿
(関東支部役員)

支 部 長	別 府 忠 雄	昭和三十四年度卒
副支部長	守 屋 一 郎	昭和四十九年度卒
副支部長	山 川 昭 雄	昭和五十年年度卒
事務局長	長谷部 誠	昭和五十年年度卒
会 計	長谷部 誠	
幹 事	梅 津 好 春	昭和四十七年度卒
幹 事	風 戸 強	昭和四十四年度卒
会計監査	空 席	
相 談 役	沼澤今朝夫	昭和二十六年度卒
	新保与四雄	昭和二十六年度卒
	宮 城 文 井	昭和三十年年度卒
	大 金 民 子	昭和三十一年度卒
	紺 野 邦 夫	昭和三十三年度卒
参 与	荒 川 繁 夫	昭和二十九年度卒
	安 達 英 雄	昭和二十九年度卒
	安孫子健一	昭和三十四年度卒

荒砥高校同窓会関東支部 2022年度決算報告書 自2022年4月1日～至2023年3月31日(単位:円)

収 入		支 出	
前期繰越金	713,104	総 会 費 (キャンセル代)	0
振込寄付金 (76名)	301,000	会 議 費	4,040
寄付金現金 (2名)	10,000	印 刷 費 (支部報発行、振込用紙、その他)	40,990
広告協賛金 (名刺版6口+法人広告1口)	35,000	通 信 費 (支部報発行・発送、その他)	239,276
雑収入 (預金利子・その他)	5	交 通 費	
	0	その他・雑費	7,247
	0	寄付金振込振込手数料 (30号迄)	21,594
	0	本部総会祝金	0
		支出合計	313,147
合 計	1,059,109	繰越金	745,962
		合 計	1,059,109
		預金通帳	717,959
		手持ち現金	28,003
		次期繰越金	745,962

上記の通り相違ない事を報告いたします。
2023.3.31

会 計 宮 城 文 井 ㊞

荒砥高校同窓会 関東支部 2022年度会計監査報告報告書

上記決算書について、帳簿諸表等を監査いたしました結果、全て適正に
処理されている事を認めます。
2023.4.19

会計監査 別 府 忠 雄 ㊞

会計監査 ㊞

沼澤春夫監査員は、3月上旬死病の為役員を退会、別府支部長が代行して監査を実施致しました。
今年度の会計監査は、コロナ感染防止対策上、例年の通り関係者が一堂に会し行う事が困難な為、必要な帳簿を別府支部長に郵送、監査人を代表して同氏の監査を受ける事となりましたのでご了承願います。
(支部長 別府忠雄、会計 宮城文井)

事務局だより

久々に関東支部の総会・懇親会を企画しております。(詳細6P)
コロナ禍もあり、なかなか機会を設けられずにおりました。
又、笹川記念館が建て替えという事で、新しい会場となります。
懐かしい方たちと、おいしい料理に舌鼓を打ちながらご歓談いただければと思います。
一人でも多くの皆様のご出席をお待ちしております。
支部報と共に振込用紙を同封させていただきます。

同窓会の活動は皆様方の寄付により成り立っております。(2022年度は76名の皆さんにお振込みいただき、30万円余の金額が集まりました。)会の維持のためにも少しでも多くのご協力をお願い申し上げます。
(長谷部誠)

◆編集後記◆

新役員の下、右往左往しながらも初の支部報をお送りすることが出来ました。
支部報作成にあたり、地主荒砥高校長・山川コーディネーター・青木同窓会会長・小関観光協会会長を始めとする多くの方々のご寄稿に感謝申し上げます。
荒高存続、魅力化の為地元の皆様方のご尽力に感謝するとともにその成果に安堵の気持ちで一杯です。
この支部報が会員の皆様型のコミュニケーションツールとして、又年一回故郷や母校を思い懐かしんで頂くツールとして少しでもお役に立てば幸いです。
引き続き皆様方のご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
10月には関東支部総会も4年ぶり開催します。一人でも多くの方々のご参加を切にお願い致します。10月にお会いしましょう。(山川昭雄)

「75年目の春を元気にスタート」



山形県立荒砥高等学校
校長 地主佳子

荒砥高校同窓会関東支部の皆様方には、本校の教育活動に對しまして、日頃より多大なるご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

母校荒砥高校は、稲荷台の桜が満開となった四月八日の入学式で四十名の新入生を迎え、全校生七十七名で令和五年度をスタートしました。お蔭をもちまして、昨年以上に校舎内に生徒達の声が賑やかに響く春を過ごしました。また、五月八日には、創立七十五周年記念式典、プロの演奏家によるスクールコンサートを開催しお祝いをいたしました。初夏を迎えた現在、紅白対抗で行われるスポーツ祭の成功に向け生徒会を中心に取り組んでいるところです。

昨年度、策定・公表した本校のスクー



ルポリシーは①確かな学力の育成、②豊かな人間性の育成、③地域に貢献する人材の育成の三つを柱にしています。これまで同様に丁寧で細やかな学習指導に力を入れ、生徒の進路希望の実現に迫っていきます。また、学校行事や特別活動を通して、互いを思いやり前向きに努力する人間を育むとともに、地域と連携した教育活動を充実させて、地域の皆様に愛される高校となるよう努力してまいります。

県の小規模校魅力化事業の3カ年が昨年度で終了となりましたが、白鷹町のご支援により、町と本校で連携して二期目の取組みを継続していくことになりました。荒砥高校の単独での存続をかけて引き続き生徒募集に注力していくことにしております。

今後も引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

町中が応援！

荒砥高校魅力化事業

荒砥高等学校魅力化コーディネーター

山川英俊



荒砥高校は、創立以来、優秀な人材を輩出してきた伝統ある学校です。しかし、少子化と共に入学者の減少が続ぎ、令和二年度からは四十名定員となり、二年連続して定員の半数に満たない場合、学校の在り方について協議する。」と県再編整備計画が示されました。これを受け、志願者増を意図して始められたのが、町の「高校魅力化事業」です。私は、それに携わらせていただいている一員です。

柱としたことは、第一に「生徒にとって魅力ある学校」ということです。それは、将来に希望が持てる学校であり、自己実現ができる学校です。そのために、総合学科の強みを生かし、生徒のニーズに込められる教育課程となるよう、先生方がアイデアを絞りました。

もうひとつは、「地域にとっても魅力ある学校」ということです。地元企業で働く人材育成ということもありますが、それ以上に、この町にあって良かったと言われる学校ということです。例えば、甲子園に出場すると町中が沸くように、

生徒の活躍する姿は大人をも元気にしてくれます。それは、ボランティアや地域行事で活躍する姿でも同じだと思えます。高校があるからこそ町も元気になる。それが、「地域にとっても魅力ある学校」であると考えています。

そして三つ目は、「町が魅力を支える学校」ということです。町からは、修学旅行費補助等の経済的支援をいただいています。また、商工会や教育委員会等も教育活動に協力的に関わってくださいます。町を挙げて、学びを保証し魅力を支えてくださっているのです。

このように取り組んでいる魅力化事業ですが、今年度は定員いっぱい四十名の新入生を迎えることができました。魅力化に加え、個性を尊重する温かい校風が、中学生や地域の方々に理解していただいた結果であると思っています。

同窓会の皆様には、これからも力強く応援していただけますよう、よろしくお願いいたします。

関東支部の皆様へ

荒砥高等学校同窓会

会長 青木彰榮

（昭和47年度卒業）



同窓会関東支部の皆様にはおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、同窓会活動にご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。コロナ禍のこの三年間は毎年実施していた事業や活動が制限され、ようやく以前のように戻りつつあるかと思われる時に、菅野孝雄支部長の訃報に接し驚いたところです。長く支部長として同窓会活動にご尽力頂きましたことに深く感謝申し上げますとともに、心からのご冥福をお祈りいたします。

徒、保護者の方には選ばれる高校になることを願ってやみません。

関東支部の役員体制も、新たに別府忠雄様を支部長に60代の皆様を中心として活動されていくということです。地域を支える有為な人材育成をする学校として存続させるべく、共に連携を取らせていただきますながら歩みをすすめられればと思います。更なるご指導、ご協力・ご支援の程お願い申し上げます。

二〇二二年度

「支部報」に寄せて

山形県立荒砥高等学校後援会

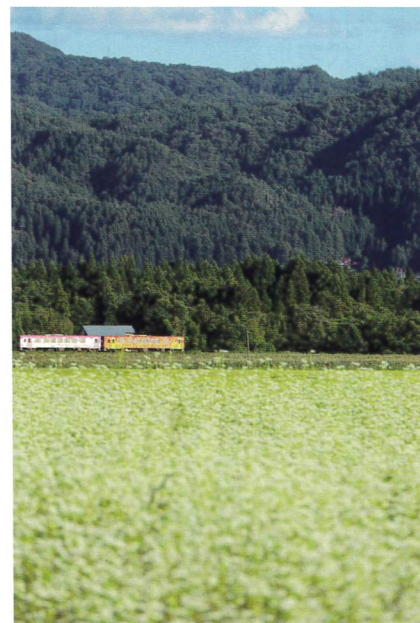
会長 沼澤政幸



この度後援会長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。長年に亘って後援会長としてご尽力賜りました菊地豊宗前会長様に心からの敬意と感謝を申し上げます。菊地前会長同様、学校、同窓会、そして後援会が一体となって荒砥高校を一層発展させて参りたいと思っております。

さて、紙面を借りて自己紹介と高校時代の思い出のようなものを記させていただきます。私は、荒砥高校昭和四十七年度卒業生です。関東支部の幹事を務めておられます梅津好春さんと同級生です。生まれは中山の上原で、

現在は鮎貝に住んでおります。高校へはバスや自転車、時には禁止されていたバイクで通いました（時効です）。当時は道路の大部分が未舗装で、ばんぼり（土埃）に悩まされながら通学したものでした。道路一つをとってみても、五十年前はこ



んな時代だったんだと改めて思います。バイク通学は禁止されていましたが、免許を取得することは可能で、ほとんどの男子生徒は免許を手に入れ、バイクを買ってもらった時代でした。今だったらスマートフォンといったところでしょいか？ 私は勉強はあまりせずに、バイクに熱中した高校時代を送りました。取留がないことを書いてしまい大変失礼いたしました。

荒砥高等学校同窓会関東支部の益々のご発展と会員の皆様のご多幸を祈念申し上げます。



汽車が通つて

100周年

一般社団法人白鷹町観光協会
会長 小関 吉郎



今年も、古典桜や紅花が見事に咲き、ようやく全国からお客様がお出でになるようになり、にぎやかさを取り戻しつつあります。みなさまにいかがお過ごしでしょうか。

さて、4月22日、長井線の全線開業から100年を迎えました。100年を記念して、ラッピング列車（紅花、アヤメ、ダリヤ、桜）の4両連結運行が行われるなど、記念イベントが開催されました。

観光協会では、このイベントに合わせて、70年前、開通30周年旗行列に参加した当時の中学生（現在81歳から83歳）方を募り、合唱隊を編成し、当時歌われた「祝い唄」をご披露いただきました。「多くの方のお力で…汽車が通って30年、

みんなで祝おう
感謝しよう」

出征兵士を見
送った思い出、

貸し切った出か
けた修学旅行、

集団就職の友を
見送ったこと、

出稼ぎに行った
ことなど、思い
出話をお聞きし
ました。

車社会、人口減少など、フラワー長井
線は、経営が難しい状況にあります。荒
砥高校の生徒さんをはじめ、高校生の通
学としてもなくてはならない路線です。
方言ガイドさんのツアーに人気があり、
国内外のお客様にご乗車いただしていま
す。一人でも多くの方にご利用いただ
き、存続に向けてご支援いただきたいと
思います。



時代に抗う



日本G T(株)
代表取締役

高 野 徹

昭和60年卒業の高野と申します。
この度ご縁があり貴支部の支部報に寄
稿させて頂くことになりました。

小職は白鷹町の東部工業団地に工場を
構える会社で代表を務めて頂いてお
り、弊社従業員の内43名が荒砥高校の出
身者です。ただ、ここ数年は荒砥高校か
らの新卒者も減り、5年前が最後の新卒
者となっております。

この春、21名の方が荒砥高校をめでた
く卒業されたようですが、その内、町内
就職者はたったの2名との事。身近な所
でも少子化の波を肌で感じ、地元企業に
とって雇用問題は大きなリスクとなっ
ております。

現内閣では「異次元の少子化対策」と
銘打って様々な政策が打ち出されては
おりますが、その効果・成果が表れるの
は何十年も先の話で、本当に成果が出る
のかも疑問なところです。

そのリスクを少しでも補うため、弊社



でも外国人技能実習生を採用しながら労
働力確保に努めてはおりますが、それだ
けでは補えない時代がいずれやって来る
のは明らかです。

省力化や自動化などDXへの投資を加
速させ生産効率を上げて行かねばと感
じている所です。

企業も時代の潮流に抗い（あらがい）
もがきながら何とか生き抜いて行こうと
奮闘しておりますので、荒砥高校在校生
の諸君も、多様性、不確実性の時代では
ありますが、その時代にあらがいながら
社会的進歩や変革を産み出し、より良い
未来を築いて行きたいとエールを送
ります。

高校の同窓生つて

関 千鶴子
(昭和50年度卒)

菅野孝雄支部長の計報は、衝撃と「ご縁があってお世話になった方が…」とい
う寂しさでいっぱいでした。ご冥福をお
祈り致します。

平成16年（2004年）から町議
議員という立場で、荒砥高校への関わり
やコロナ禍で中止になっていた首都圏白
鷹会の総会へ参加する機会ができた
た。総会の会場の上野精養軒で何回かお
会いしている中で、荒砥高校出身者であ
るとわかった時の嬉しさはひとしおでし
た。そして、お話のなかで望郷の念を感
じさせていただきました。そんな折、昨
年は私の住んでいる鮎貝出身の方が子
息とともに来町され、短い時間でしたが
私の知らなかった鮎貝八幡宮の獅子頭の
ことをお聞きすることができました。有
難く思ったことでした。

SNSで繋がっていたこともあり、思
いがけず高校の同級生からメールをもら
いました。二人の同級生が、関東支部の
役員、それも副支部長、事務局長の役職
を引き受けたとのこと。「前期高齢者の
仲間入りをし、いただいた恩を償いでも



社会へ返すそんな年齢になったのだ
なあ」としみじみと感じたところ
でした。そして、6月の初めにお二人が来町
され、あの時に戻って話をするので
すが、私にしてみれば数十年を経て知るこ
とがたくさんあって、驚きの連続でし
た。

高校の同級生は小・中学校の同級生と
は違い断片的なことしか覚えていないの
かもしれません。それでも高校の先輩、
同級生、後輩が同窓生という枠組のなか
で交流できるということは嬉しいことだ
と思います。

荒砥高校の 現状報告

守屋 一郎
(昭和49年度卒)

白鷹町に住んでいる者から見た荒砥高
校の現状をお伝えします。

今年（令和5年4月）の入学者は、定
員一杯の40名でした。これは快挙です。
定員を満たしたのは手元にある資料によ
ると平成23年以降ありません。

3学年、生徒数77名でスタートしまし
た。

県内や置賜地区を見ても、定員を充足
した高校は少数です。（山形新聞記事）

定員を確保した要因を考えますと、昨
年の支部報にも書かせて頂いた、白鷹町
からの手厚い支援が大きいと思います。

また、先日同窓会役員と学校を訪問し
た際、地主校長先生に新入生の増加要因
を伺った所、「町が派遣している高校魅
力化コーディネーター山川さん（前白鷹



中学校長）の情報発信が寄与しているの
では」とのことでした。山川コーディ
ネーターは、町内6箇所のコミュニティ
センター、町内や長井市の中学校等に対
して荒砥高校の活動を紹介する掲示場所
の確保や掲示物の作成に貢献しているこ
とのことでした。

私も荒砥、十王地区のコミセンで、楽
しそつに活動している荒砥高校生の様子
を見て、高校の存在を身近に感じていま
した。紙面も大きく見やすいです。

この様に地道な活動を積み上げて行く
ことが高校存続に繋がるものと思ひ、今
後の活動を見守りたいと思います。



私は、荒砥高校昭和三十年卒業後、農業を手伝いながら森林組合の苗木育成等に従事していました。鉄橋嵩上げ工事には昭和三十三年五月から十二月まで携わり、古い橋脚の中間に新たに橋脚を基礎から造り、掘削は周りを天板と丸太で囲いドラム缶に、土砂をスコップで入れ・そのドラム缶をウインチで地上に吊り上げる繰り返しで掘削する。底辺にコンクリート張って鉄筋組み立上げ・型枠組み・コンクリート流し込み・堤防の両サイド土盛りに従事しました。当時は現在と違い最新の重機は無く、丸太で組んだアームでのウインチでした。

人海戦術でスコップ・つるはし、コンクリート運びは丸太で組んだ歩み板上をネコ車で、堤防でコンクリート練場から一番奥の橋脚迄は大部距離があり苦労でした。土盛り作業は手押しのトロコで土砂を運び、堤防の両サイドの土盛りも嵩上げて、肉体労働の連続でした。

荒砥鉄橋嵩上げ工事の思い出
宮城文井（鮎貝出身）

私は、荒砥高校昭和三十年卒業後、農業を手伝いながら森林組合の苗木育成等に従事していました。鉄橋嵩上げ工事には昭和三十三年五月から十二月まで携わり、古い橋脚の中間に新たに橋脚を基礎から造り、掘削は周りを天板と丸太で囲いドラム缶に、土砂をスコップで入れ・そのドラム缶をウインチで地上に吊り上げる繰り返しで掘削する。底辺にコンクリート張って鉄筋組み立上げ・型枠組み・コンクリート流し込み・堤防の両サイド土盛りに従事しました。当時は現在と違い最新の重機は無く、丸太で組んだアームでのウインチでした。

荒砥鉄橋嵩上げ工事の思い出

宮城文井（鮎貝出身）

クリート練場から一番奥の橋脚迄は大部距離があり苦労でした。土盛り作業は手押しのトロコで土砂を運び、堤防の両サイドの土盛りも嵩上げて、肉体労働の連続でした。

上げ工事進行の概要です。
荒高鉄橋研究所の「歴史②」に写真六枚を荒砥駅資料館入口に、移動式パネルをご覧下さい。しらか旅先案内人で活用する様観光協会に依頼してあります。平成十九年十月二日山形経済同友会の第五会「次代につなぐやまがた景観賞」の最終選考会が荒砥鉄橋と景観（白鷹町）が大賞に輝き受賞されました。「荒砥鉄橋」は明治二十一年に東海道本線木曾川橋梁としてイギリスから輸入架設され、大正十二年この橋を二〇〇フィート（約六十一メートル）の長さのものを一五〇フィート（約四十六メートル）に短縮改良して、旧国鉄長井線の最上川橋梁として架けたのが荒砥鉄橋です。以来九十数年もの間、町民や高校生の交通アクセスの役割を担ってきました。荒砥鉄橋を未来につなぐ、フラワー長井線を皆さんが利用愛し続け、存続させて町の更なる発展に繋げよう。

関東支部の皆様へ

去る5月2日、前支部長「菅野孝雄」氏が病気のためご逝去されました。
ここに関東支部一同謹んで哀悼の意を表します。
また、生前菅野氏より支部報への原稿を預かっておりましたので、今回掲載させていただきます。

関東支部の皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて私は、思いもよらぬ病氣にかかり、支部長としての職責がままならぬ状態になりました。
また、他の役員も高齢のため、様々な問題が生じ、悩みの毎日でありましたが、関東支部のため、協力したいと言う後輩たちのおかげで、この度、新役員会が立ち上がりました。別府忠雄氏には、無理を承知で新しい支部長をお願いし、幸いにもご承諾をいただきました。
新役員の皆様へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。
さて母校では、40名の新入生を迎え、第75回入学式が4月8日に挙行されたとのこと、心から祝い申し上げます。
また、これまで荒砥高校存続のために尽力されてきた関係各位に心より感謝申し上げます。
これを弾みに、夢と希望のある高校として、母校が益々躍進されますことを、そして荒砥高校同窓会関東支部の一層の発展を願っております。
最後に、これまで私にお力添えを頂いた皆様に、深く感謝申し上げます。

2023年4月

菅野孝雄

荒高同窓会関東支部 総会・懇親会のご案内

日時.. 10月7日(土) 11:00 ~ 14:00
場所.. 喜山倶楽部「芙蓉の間」
東京都千代田区一ツ橋2-6-2
日本教育会館9階

電話番号 03-3262-7661

会費.. 8,000円



十王 出身 昭和三十四年度卒
画家 八樹会代表
フランス芸術家協会永久会員
別府 忠雄
茨城県牛久市牛久町三一六九一三

鮎貝 出身 昭和三十年度卒

宮城 文井
川崎市多摩区菅馬場一六〇一〇一

鮎貝 出身 昭和四十四年度卒
作詞家
日本音楽著作権協会正会員

風戸 強
我孫子市泉三八一三〇七

東根 出身 昭和四十七年度卒

梅津 好春
東京都大田区西蒲田三一九二二一

十王 出身 昭和四十九年度卒

守屋 一郎
千葉県船橋市二和東五一五二一九

中山 出身 昭和五十年度卒

山川 昭雄
神奈川県川崎市高津区宇奈根六三九一〇三

荒砥 出身 昭和五十年度卒

長谷部 誠
埼玉県所沢市小手指町一七七 C一六〇五